

第 23 回 日本 IVF 学会学術集会

0-6

広島 2020/10/31-11/1

Duo Stim 法により良好な凍結成績が得られた 1 例

森下みどり、貫井李沙、小宮慎之介、浅井淑子、姫野隆雄、井上朋子、森本義晴

HORAC グランフロント大阪クリニック

【背景】近年、不妊治療患者の高齢化に伴い、卵巣機能低下や胚質不良などの要因で採卵するも凍結できない反復不成功患者が増加している。若年癌患者の妊孕性温存を対象としたランダムスタート法では、採卵数・良好胚数、染色体異常率など、通常の体外受精と変わらない結果となっている。近年、通常体外受精でも同様に黄体期に卵巣刺激・採卵を行うことで採卵数や凍結胚数が増加すると報告されている。今回、当院にて Duo Stim 法での採卵を行い、良好胚盤胞を凍結できた症例を経験したため報告する。

【症例】44 歳女性。4 経妊 1 経産。43 歳時に当院初診、初診後自然妊娠するが流産となり、その後より体外受精を開始した。AMH1.73ng/ml 採卵 5 回施行するが良好胚盤胞は凍結できず、凍結融解分割期胚移植を 2 回施行したが妊娠成立せず。6 回目の卵巣刺激中に、17mm まで発育した卵胞を認めたが他に 10mm 以下の小卵胞を多数認めたため、Duo Stim 法での採卵を提案し希望された。hCG 注射を行い、36 時間後に主席卵胞 1 個を採卵。MII 卵 1 個、体外受精で受精、Day3 胚 1 個 (Mo) を凍結した。1 回目の採卵 2 日後に診察を行い、HMG 注射と GnRH アンタゴニスト経口薬を卵胞径が 18 mm になるまで投与し、1 回目の採卵と同様に採卵を行った。採卵数 6 個、MII 卵 6 個、体外受精で 4 個受精、Day3 胚 1 個 (G1b9)、胚盤胞 2 個 (BL4AB,BL4BB) を凍結した。2 回目の採卵で良好胚盤胞を凍結できたため、次周期も同様の方法で採卵を希望された。1 回目の採卵で採卵 3 個、MII 卵 3 個、体外受精で 3 個受精、胚盤胞 3 個 (BL3AA,BL5BB,BL4BB) を凍結。2 回目の採卵で採卵 5 個、MII 卵 5 個、体外受精で 3 個受精、胚盤胞 2 個 (BL4BB,BL4BB) を凍結した。今後凍結融解胚移植を行っていく予定である。

【考察】高齢女性での不妊治療では、良好な胚を獲得するのに時間がかかり治療期間が長引く可能性が高い。今回、DuoStim 法を使用することで 1 回の月経周期での採卵個数・凍結個数を以前の周期と比較して増やすことができた。また、良好胚を凍結できたことにより、治療期間を短くできる可能性もあると思われる。